

濟州文化のセレンディピティ的な再照 明

私・此処・今としてのセレンディピティ
と濟州文化の創造

発表者：【氏名 / 所属
】 2025年7月7日



目次

1. 研究の背景および目的
2. 21世紀の文化の時代的特徴
3. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 島の特性
4. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 自然条件
5. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 地政学的位置
6. 済州文化の歴史的変遷
7. 共感と類比的思惟を通じた文化の拡大
8. セレンディピティと済州文化の創造
- 2 9. 結論および示唆点



研究の背景お よび目的

本研究は、済州文化の固有性と変化、そして「セレンディピティ（Serendipity）」の観点からの文化創造の可能性を再照明する。済州島の独特な社会的・歴史的文脈に実存的・構造的分析を通じて接近し、現代社会に適用可能な文化拡大の方策を提示しようとする。



21世紀の文化の時代的特徴

- 21世紀は文化の時代：多様な文化間の出会いを通じた新たな文化の創出
- ハンティントンの「文化が重要である」という命題が、私たちの暮らしに深く根づいている
- 文化の核心はアイデンティティの反映：自らのアイデンティティが發揮されてこそ、真の名品文化へと飛躍する
- グローバル化・情報化・科学技術の発展による文化的多様性と創造性の強調
- 済州文化：韓国と同じでありながら異なり、異なりながらも同じという独自のアイデンティティを有する



濟州文化の実存的・構造的 analysis — 島の特性

濟州島は島ゆえの孤立性と自発的な断絶という特性をもつ。かつては流刑地、近代には離れるべき地、そして現在では能動的に文化を求める「パラダイス」の意味へと変化した。

孤立 (Isolation)

受動的な特性 不満と不幸の態度
過去の濟州島

断絶 (Disconnection)

能動的な特性 感謝と幸福の態度
現代の濟州島

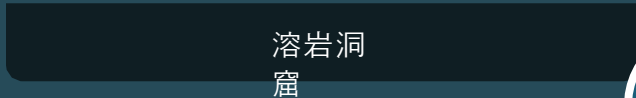
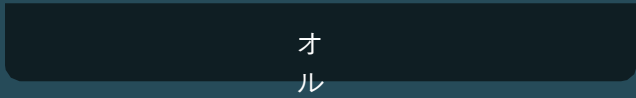
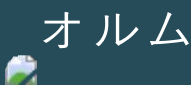
ガラパゴスのように孤立していた濟州島が、現代社会ではむしろ自然環境と文化的固有性が保存された価値ある空間として再解釈されている



濟州文化の実存的・構造的 analysis — 自然条件

漢拏山・オルム・溶岩洞窟などの独特な自然環境は、かつての災いから祝福へと認識が変化した。痩せた自然が共同体意識と自生力、そして独特な文化資産の原動力となった。

- 東西73km、南北31kmの小さな島に、368のオルムと160余りの溶岩洞窟が分布
- 漢拏山を中心に高度に応じた多様な気候帯が形成され、年平均14℃の温かな気候
- 黒褐色の火山土という痩せた環境が、住民の絶え間ない努力と共同体意識を強化



済州文化の実存的・構造的分析 — 地 政学的位置

済州島は韓国・中国・日本の中央部に位置し、東アジアの海上交通路の中心に位置している。

- ロシアと中国、日本と東南アジアを結ぶ戦略的要衝
- 歴史的に多様な外部勢力の影響を受けた（元朝、日本など）
- 日本統治期には、日本本土を守るための最後の砦として利用された
- 朝鮮半島の最南端という地政学的特殊性が、済州文化発展の重要な動因とな

 済州島の地政学的位置



濟州文化の歴史の変遷

濟州島は多様な歴史的事件を経験しながら、独特な文化的アイデンティティを形成してきた。苦難と試練の歴史が、現代では文化的資産として再解釈されている。

古代～中世

耽羅国の時代から元朝の支配
まで

朝鮮時代

流刑地としての濟州、李在
守の乱

日本統治期

日本の軍事基地、住民
の移住

現代

4・3事件、観光産
業の発展

過去

- 孤立した島、流刑地としてのアイデンティティ
- 外部から見捨てられた地であるという認識
- 痛みと傷の場所
- ダークツーリズムの対象

現在と未来

- 世界的な観光地としての価値の再発見
- 文化的固有性と多様性の承認
- 癒やしと希望の場所としての再生
- 苦難克服のストーリーを通じた文化の創造



共感と類比的思惟を通じた文化の拡大

共感 (Empathy)

現代社会が切実に必要とする価値であり、脳科学におけるミラーニューロンの発見によって実証的に裏づけられている

- 実存と構造把握の根拠
- 濟州島の異文化

類比的思惟 (Analogical thinking)

中国哲学の相関的 (correlative) 思惟と類似し、連想と比較を通じた思考の様式

- 東洋的な思惟様式との結びつき
- 『莊子』の寓言 (ぐうげん) の方法
- 濟州島の自然と歴史の類比的な対照

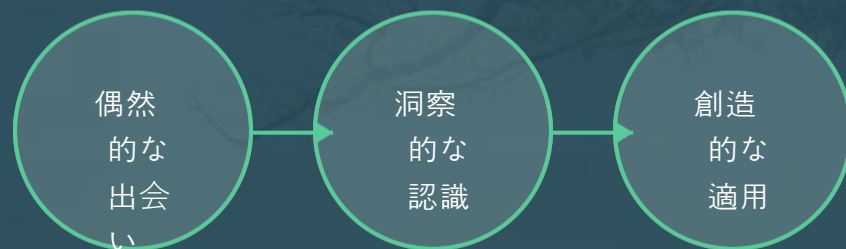
ストーリーテリングと文化の拡張：共感と類比的思惟は、濟州島の歴史と地理を基盤としたストーリーテリングの生産に核心的な役割を果たし、これを通じて濟州文化の拡大と共有が可能となる



セレンディピティと済州文化の創造

セレンディピティ (Serendipity) とは？

- 探していたものとは異なる予期せぬ発見を通じて、新たな価値を創出する現象
- 偶然な発見と洞察力が結合した創造的な過程
- 済州文化においては、歴史的な試練と外部の影響を肯定的な変化へと昇華させる過程



済州文化創造の核心要素

- 外来文化の主体的な受容：歴史的な外部の影響を独創的に変形し、済州ならではの文化へと昇華
- 逆境の創造的な転換：孤立と痩せた環境という不利な条件を文化的資産へと転換
- アイデンティティの再構成：多様な外部の影響の中でも、済州ならではの固有性とアイデンティティを維持・発展
- 現代的な適用：済州文化のセレンディピティ的な特性を、現代社会における新たな価値創出のモデルとして活用



結論および示唆点

濟州文化の価値の 再発見

- 濟州島の実存的特性（島・自然・地政学的位置）が文化的固有性を形成
- 歴史的な苦難を資産へと昇華させた構造的変化の過程
- 濟州文化の癒やしの要素と共同体意識の現代的な活用可能性

セレンディピティ 的な創造の方向

- 共感と類比的思惟を通じた文化拡張戦略の開発
- 外来文化の主体的な受容と創造的な変形のモデルとしての濟州文化
- グローバルな文化遺産としての持続可能な成長の可能性

「濟州文化は、私・此処・今の観点からセレンディピティを通じて、過去の傷を現代の資産へと昇華させる文化的モデルとなりうる」



参考文献

- 発表資料および引用文献は実際の発表時に表記
- 姜文奎（2015）。『済州学概論』。済州：済州大学校出版部
- 金東潤（2018）。『済州文化の再解釈とセレンディピティ』。ソウル：学志社
- 洪吉童（2022）。「実存的観点から見た済州文化のグローバル化方策」。『韓国文化研究』、45(3)、78–96
- Roberts, R. M. (2020). Serendipity: Accidental Discoveries in Cultural Studies. London: Routledge
- Smith, J. & Brown, A. (2021). "Cultural Identity and Existential Approaches to Heritage Preservation." Journal of Cultural Studies, 28(2), 112-134

